



2013年11月20日

## アピドラ<sup>®</sup>注ソロスター<sup>®</sup>ボディカラー 識別性の高いスカイブルーに変更 ～患者さんの声を反映～

サノフィ株式会社(代表取締役社長:ジェズ・モールディング、本社:東京都新宿区、以下「サノフィ」)は、本年12月より、超速効型インスリンアナログ製剤アピドラ<sup>®</sup>(一般名:インスリン グルリジン[遺伝子組み換え])の注入器である「アピドラ<sup>®</sup>注ソロスター<sup>®</sup>」のボディカラーを、ブルーグレーからスカイブルーに変更しますのでお知らせいたします。

「アピドラ注<sup>®</sup>ソロスター<sup>®</sup>」のデバイスカラーについて、強化インスリン療法\*を実施している糖尿病患者50名を対象に調査したところ、患者さんがデバイスを見分ける基準として最も重視しているのは本体の色であることが明らかになりました。また、同調査により、スカイブルーは色覚障害がある糖尿病患者さんにおいても識別性が高いことが示されたため、患者さんの声を反映させて、「アピドラ注<sup>®</sup>ソロスター<sup>®</sup>」の本体の色をスカイブルーに変更することになりました。

サノフィでは、日本の糖尿病患者さんや医療従事者の声に耳を傾け、識別性や利便性を追求した日本市場向けのデバイスの開発を進めています。「日本の健康と笑顔に貢献し、最も信頼されるヘルスケアリーダーになる」というビジョンのもと、糖尿病領域において、患者さんが健康な人と同様の健やかな生活を送れるよう、今後も疾患や治療に関する情報提供活動を積極的に行ってまいります。

### 【製品写真】

旧アピドラ<sup>®</sup>注ソロスター<sup>®</sup>



新アピドラ<sup>®</sup>注ソロスター<sup>®</sup>



以上

\*強化インスリン療法とは、インスリンの頻回注射、または持続皮下インスリン注入(CSII)療法に血糖自己測定に併用し、医師の指示に従い、患者自身がインスリン注射料を決められた範囲内で調節しながら、良好な血糖コントロールを目指す治療法です。(出典:糖尿病治療ガイド2012-2013)

**サノフィ株式会社**

〒163-1488 東京都新宿区西新宿 3-20-2 東京オペラシティタワー  
www.sanofi.co.jp



## デバイスカラー調査概要

実施期間： 2010年12月～2011年2月

対象者： 2型糖尿病患者 50名

実施方法： 会場グループインタビュー

調査会社： 株式会社アンテリオ

## 「アピドラ®」について

「アピドラ®」(一般名:インスリン グルリジン[遺伝子組換え])は、インスリン療法が適応となる糖尿病患者を対象に投与される超速効型インスリンアナログ製剤で、毎食直前に皮下注射されます。特徴的な製剤設計により、皮下投与後の速やかな吸収と短時間での消失、生理的な追加インスリン分泌パターンの再現が期待できます。「アピドラ®」はHbA1c値ならびに食後血糖値を改善します。海外では、アメリカ、欧州で2004年に承認を取得し、現在80カ国以上で承認されています。日本国内では、2009年4月に製造販売承認を取得し、同年6月より販売を開始しました。

## サノフィの糖尿病領域部門について

サノフィは、革新的で個人に合わせた総合的なソリューションを提供することによって、患者さんが糖尿病の複雑な問題を管理できるよう支援しています。糖尿病患者さんの声に耳を傾け、対話することによって得られた貴重な見解をもとにパートナーシップを構築し、診断、治療、サービス、革新的な血糖モニタリングシステム\*をはじめとするデバイスを提供しています。サノフィは、1型糖尿病および2型糖尿病患者さん向けに注射薬と経口薬を販売しています。\* サノフィ(株)コミュニケーション部注：血糖モニタリングシステムは、日本では未承認です。

## サノフィについて

サノフィは、グローバル事業を統合的に展開するヘルスケアリーダーとして、患者さんのニーズにフォーカスした医療ソリューションの創出・研究開発・販売を行っています。サノフィは、ヘルスケア分野において7つの成長基盤を中核としています。それは糖尿病治療、ヒト用ワクチン、革新的新薬、コンシューマー・ヘルスケア、新興市場、動物用医薬品、および新生ジェンザイムです。サノフィはパリ(EURONEXT:SAN)およびニューヨーク(NYSE:SNY)に上場しています。